

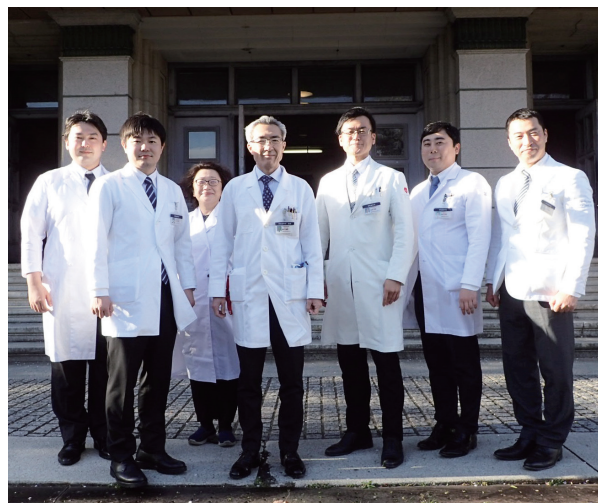
# 外科学系呼吸器外科学分野

## I. 日本大学医学部呼吸器外科の歴史

昭和31年、日本大学医学部 旧第二外科に宮本忍教授が赴任し、当時国民病と言われた肺結核に対する外科療法をスタートしました。その後大畑正昭教授が、嚢胞性肺疾患に関して広く研究、自然気胸の嚢胞形態分類の確立、胸腔鏡の手術導入など常に最先端の治療を展開してきました。2016年10月より櫻井裕幸教授が赴任、新たな体制で診療を開始し、2023年で6年6カ月が経過いたしました。

2019-2023年と5年連続で新入局員の入局がありました。2023年度も1人の入局員を迎えております。

日本大学医学部外科系呼吸器外科学は少人数の医局ではありますが、質の高い教育、地域の皆様に信頼される医療を提供してまいります。

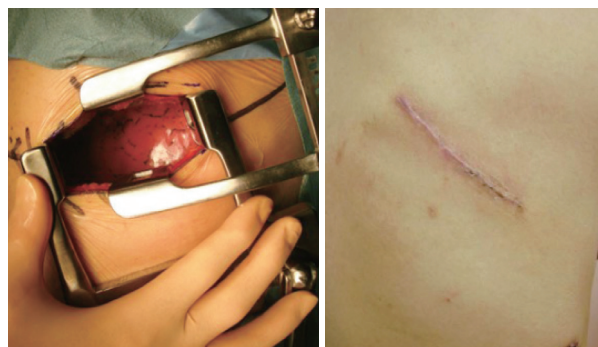
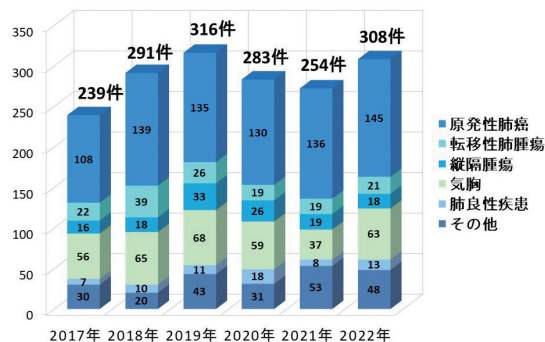


## II. 治療実績

近年、肺がんは、罹患数および死亡数ともに全癌腫の中でも上位を占め、今後も増え続けることが予測されています。さらに、肺がん検診の普及や気管支鏡、CTなどの診断技術の向上により、肺癌に対する手術件数も増加し、呼吸器外科の担う役割はますます大きくなっています。

当院の肺癌手術には、肺癌の進行度に合わせて、DaVinciによるロボット支援手術、胸腔鏡手術、小開胸手術という3つのアプローチ方法の選択肢があります。低侵襲と正確性の高い操作を重視しております。肺癌の進行度によって、より侵襲の少ないアプローチを選択することが可能です。短時間で出血量の少ない手術の両立が可能で、術後4-5日での退院が可能です。

2022年はコロナウイルス感染の影響も薄れ、全手術症例数は308例と2021年よりも増加し、肺癌手術が145例と過去最高数となりました。低侵襲手術の提供、質の高い治療の提供を念頭に診療を続けていく所存です。また、肺癌だけでなく、内科治療の困難な膿胸、気胸、胸水などの疾患に対し、幅広く診療に関わってまいります。



当院の小開胸手術創は6-8cmです。



DaVinciによる肺癌手術の術者はコンソールと呼ばれる装置に向かってロボットのアームを操作します。



DaVinci手術の助手は、術野で術者の補助をします。

## Ⅲ. 教育と研究



日本大学医学部呼吸器外科では、研修システムにも力を入れています。外科の技術の継承は最優先課題です。こにも充実を図っています。月に1度、医学生・初期研修のため、医学知識に関する教育はもちろん、実技の教育医を対象に、豚摘出肺を用いたウェットラボを行っています。また、1年に1度、外科に興味のある研修医を対象に、生きたブタを使って、アニマルラボを開催しています。実際の手術では肺実質・肺動静脈・気管支の切離・縫合を担当する機会は少ないですが、その代り、このウェットラボ・アニマルラボでは、教授をはじめ、スタッフが1対1で研修医に指導を行います。実際に手術の際に使用する電気メスや自動縫合器などの手術器具を使用します。実際の手術とは異なり、研修医も焦ることなく手技を行うことができます。初期研修医が自らの手で落ち着いて手技を行うことができ、外科、特に呼吸器外科に興味を持ってもらうことを狙いとして行っています。もちろん、切離・縫合の技術の上達にもつながります。研修医にとっては外科の魅力を感じられるプログラムと考えています。



日本大学医学部呼吸器外科の後期研修では、一定期間、日本大学医学部附属板橋病院で研修を受けた後、国立がん研究センターをはじめとした一流のセンター病院で研修することが可能です。ハイポリュームのセンター病院では、非常に集中した研修を受けることができます。1週間に10～15件の肺切除術があり、その大部分に関わることができ、3～5件を受け持つことができます。この1～2年で飛躍的に手術手技が向上し、知識も増加します。また、この期間に外科専門医を取得することが可能で、外科専門医を取得した後、呼吸器外科専門医を取得すること

が可能になります。気管支鏡専門医やがん治療認定医も取得可能です。このように、一人一人の先生方の成長と進歩を考え、研修プログラムを計画しています。

研究面では、「動態胸部X線による胸膜癒着、癌浸潤に関する研究」「動態胸部X線による周術期呼吸機能の変化」「4D-CTを用いた肺癌の周囲臓器浸潤・癒着の予測」「肺癌の胸膜浸潤の検討」「肺嚢胞の肉眼形態」「肺嚢胞とウイルス感染との関係」に関する研究を当科で行っています。

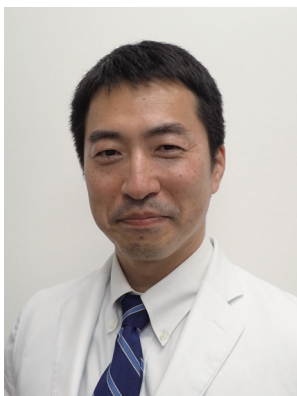
日本大学医学部呼吸器外科は症例が多彩です。肺癌治療だけでなく、様々な疾患を経験することができます。その一つ一つにおいて、指導医が丁寧に指導を行います。また、呼吸器外科は、小さな教室ですが、和気あいあいとした雰囲気にあふれ、働きやすい労働環境も特徴の一つです。是非、我々の一員となり、ともに進歩していきましょう。

Ⅳ. スタッフ紹介 (2023年5月現在)



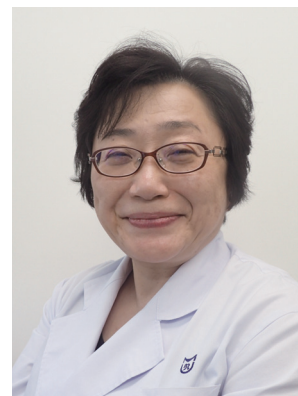
櫻井 裕幸  
(教授)

外科専門医・指導医  
呼吸器外科専門医  
気管支鏡専門医・指導医  
がん治療認定医  
肺がんCT検診認定医師  
日本呼吸器外科学会評議員  
日本胸部外科学会正会員  
日本肺癌学会評議員  
日本呼吸器内視鏡学会評議員  
日本胸部外科学会評議員



河内 利賢  
(准教授/医局長/病棟医長)

外科専門医・指導医  
呼吸器外科専門医  
気管支鏡専門医・指導医  
がん治療認定医  
日本胸部外科学会正会員  
呼吸器外科学会評議員



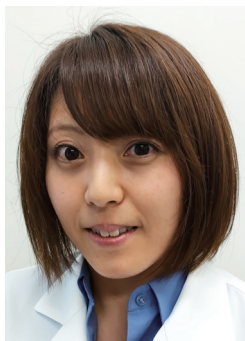
四万村三恵  
(助教/外来医長)

外科専門医・指導医  
呼吸器外科専門医  
気管支鏡専門医・指導医  
日本胸部外科学会正会員  
日本内視鏡外科学会評議員  
日本気胸・嚢胞性肺疾患学  
会評議員



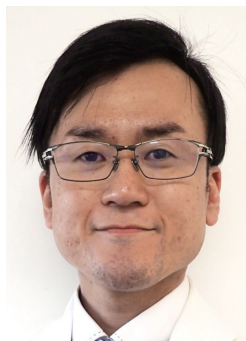
坂田 省三  
(助手)

外科専門医  
呼吸器外科専門医



中村 梓  
(助手)

外科専門医



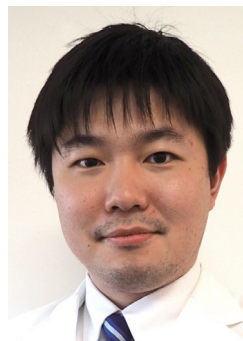
佐藤 大輔  
(専修医)

外科専門医  
呼吸器外科専門医



鈴木 淳也  
(専修医)

外科専門医  
呼吸器外科専門医



今中 大起  
(専修医)

外科専門医  
呼吸器外科専門医

問い合わせ先

〒173-8610  
東京都板橋区大谷口上町 30-1  
日本大学医学部外科学系呼吸器外科分野 医局長 河内 利賢 (かわち りけん)  
TEL: 03-3972-8111 (内線 2464) FAX: 03-3972-8256  
E-mail: kawachi.riken@nihon-u.ac.jp  
ホームページ: <http://nichidai-kokyukigeka.com>